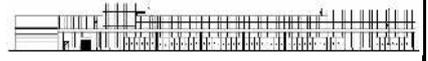


CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)マミーマート北区大成店新築工事	階数	地上1F
建設地	埼玉県さいたま市北区大成町四丁目205番1 他23番	構造	S造
用途地域	第一種住居地域・準工業地域/防風	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年3月3日
敷地面積	7,751 m ²	作成者	
建築面積	3,005 m ²	確認日	2025年3月3日
延床面積	2,962 m ²	確認者	



シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
必要部位に断熱材を設け、建物の熱負荷抑制に配慮した	0	
Q1 室内環境 建物内は全面禁煙	Q2 サービス性能 更新必要間隔の長い建材、配管材料の採用	Q3 室外環境(敷地内) 外壁緑化の採用
LR1 エネルギー LED照明器具の採用	LR2 資源・マテリアル 節水型便器、自動水栓の採用 分別が容易な工法の採用	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率: 82%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)マミーマート北区大成店新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.40			2.6
1 音環境		1.8	0.15			1.8
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		1.0	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	1.00			
2 界壁遮音性能			-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-			
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35			2.6
2.1 室温制御		3.1	0.50			
1 室温		3.0	0.50			
2 外皮性能	外壁:U=2.63、屋根:U=0.39、窓:U=5.21,SC=0.53	3.9	0.17			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33			
2.2 湿度制御		1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25			3.0
3.1 昼光利用		3.0	0.50			
1 昼光率			-			
2 方位別開口			-			
3 昼光利用設備		3.0	1.00			
3.2 グレア対策			-			
1 昼光制御			-			
3.3 照度			-			
3.4 照明制御		3.0	0.50			
4 空気質環境		2.9	0.25			2.9
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1 化学汚染物質		3.0	1.00			
4.2 換気		2.0	0.30			
1 換気量		3.0	0.50			
2 自然換気性能			-			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50			
4.3 運用管理		4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御	建物内は全面禁煙	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			3.1
1 機能性		3.0	0.40			3.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40			
1 広さ・収納性			-			
2 高度情報通信設備対応			-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30			
1 広さ感・景観	売場天井高:3.95m	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33			
1.3 維持管理		3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30			2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:磁器タイル65年、壁:化粧合板20年、天井:化粧PB30年	5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	排水管:VP(B)、給水管:VLP(B)、給湯管:SUS(C)上位3種の2種以上に(B)を使用、(E)は不使用	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		2.2	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30		-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30		-	
1	階高のゆとり	階高:5.48m	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.13	4.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40		-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.6	0.20		-	2.6
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.80	3.0	0.50		-	3.0
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.8
1 水資源保護			3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水		節水型便器、自動水栓の採用	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		分別が容易な工法の採用	4.0	0.20		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率:82%	3.7	0.33		-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪・駐車スペースの設置、荷捌き用車用スペースの確保	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.1	0.33		-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40		-	
1	風害の抑制		1.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	